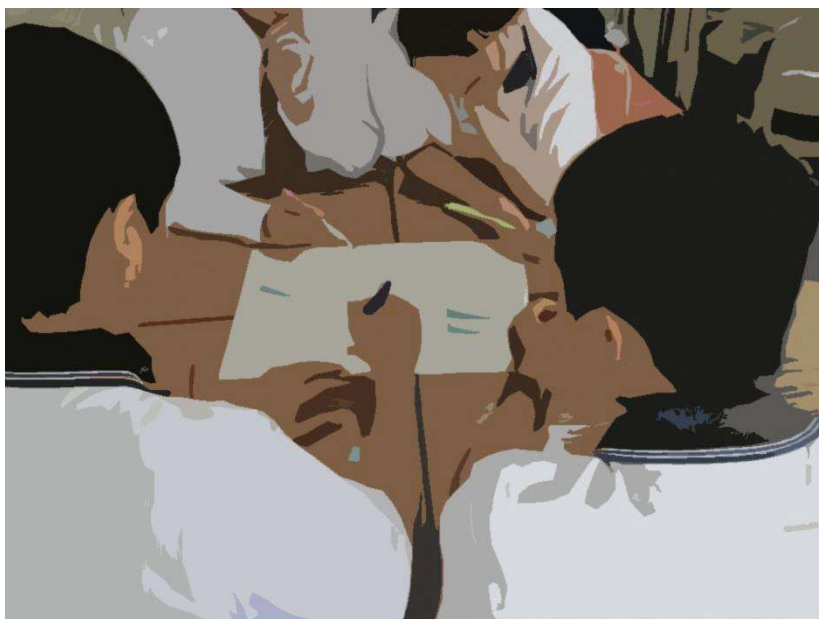


探究的な学びの充実に向けて

— 探究の見方・考え方のトレーニング —



- 岡山県教育委員会では、平成29年度に「国際バカロレアに関する調査・研究委員会」を設置し、国際バカロレア導入の可能性やグローバル化に対応した教育の内容・方法について調査・研究を行いました。
- 「国際バカロレアに関する調査・研究報告（平成30年2月）」において、国際バカロレアと新学習指導要領との親和性や「主体的・対話的で深い学び」の実現への効果等が報告されたことを受け、新学習指導要領の実施を見据え、平成30年度から「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進」事業を行い、研究協力校として岡山芳泉高等学校、岡山大安寺中等教育学校の2校を指定しました。
- 本資料は、2年間の研究の中から、国際バカロレア教育の「知の理論（TOK）」を参考に、探究学習における「課題の設定」に重点を置いた演習教材と、研究協力校2校の取組を紹介します。

国際バカロレア：国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が提供するグローバル人材育成のための国際的な教育プログラム。

知の理論（TOK）：国際バカロレア教育の中核のひとつである学習領域。知識の本質を考え、知識に関する問いを探究することを通して多角的視点や批判的思考力を育成する。

本資料の活用方法

本資料は、「総合的な探究の時間」等に活用できる演習を提案しています。「総合的な探究の時間」の中で探究する課題は、自己の在り方生き方と一体的で不可分であり、生徒自らが解決してみたいと思えることが求められます。そのため、課題の設定は丁寧に行う必要があります。本演習では、探究学習を進める際に必要となる視野の広がりや思考の柔軟さを育み、**多角的視点**や**批判的思考力**を身に付け、それらを生かして課題研究において適切に課題を作るための練習ができるように工夫しています。

演習の概要

1 演習のねらいと内容

演習 A

ねらい ・ 題材の分析や論点を考える活動を通して、視野を広げ、**多角的視点**を身に付ける。
・ 主張を作る活動を通して、課題解決の見通しをもつためには複数の情報が必要であることに気付く。

内容 1 実社会や実生活の中にある題材を分析する。〔個人〕
2 複数の視点で題材を捉え、論点を考える。〔個人、グループ〕
3 グループで話し合い、論点を決め、主張を作る。〔グループ〕

A-Step1

題材を分析する



A-Step2

論点を考える



A-Step3

論点を決め、主張を作る



演習 B

ねらい ・ 主張に対する問いを考える活動を通して、思考を柔軟にし、**批判的思考力**を身に付ける。
・ 一般化した問いを基に自分の課題を作る活動を通して、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を考える。

内容 1 主張の根拠となる情報を分類する。〔個人、グループ〕
2 情報に対して**批判的な思考**で問いを考え、その問いを一般化する。〔グループ〕
3 一般化した問いを基に、自分の課題を作る。〔個人、グループ〕

B-Step1

情報を分類する



B-Step2

問いを考える



B-Step3

課題を作る



2 演習の位置付けと展開例

ここでは、「総合的な探究の時間」の指導計画に演習A、Bを組み込んだ展開例を示します。各学校の目標や実態に合わせて、演習の効果的な活用を検討しましょう。

「総合的な探究の時間」を通して、育成を目指す資質・能力の明確化

1 ガイダンス

- 目標、内容、探究課題、日程等が示される。

■ 探究課題の参考例 [高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編 P86~90より]

外国人の生活者とその人たちの多様な価値観(国際理解)
自然環境とそこに起きているグローバルな環境問題(環境)
地域活性化に向けた特色ある取組(町づくり)
生命の尊厳と医療や介護の現実(生命・医療)
働くことの意味や価値と社会的責任(勤労)

※生徒・学校の実態を踏まえ、学校として探究課題を明確化することが重要です。

2 演習の実施

- 「演習A」、「演習B」に取り組む。



3 課題の設定(演習の活用)

- 「演習A」、「演習B」のワークシートを活用して課題を作り、個人の課題設定をする。
- 課題に対する、仮説、検証方法を考え、検証計画を立案する。

4 研究構想検討会

- 仮説、検証方法、検証計画を発表し、質疑等、意見交換する。

5 計画の改善

- 質問や助言をもとに、仮説、検証方法、検証計画を改善し、研究を開始する。

6 情報の収集

- 地域でのフィールドワークや外部機関、人材の活用により、情報を収集し分析する。

7 まとめ・表現①(中間報告会)

- 中間期の研究内容をポスターやプレゼンテーションスライドにまとめ、発表する。
- 進捗状況と見通しを報告し、助言を得る(外部人材による指導助言等)。

8 整理・分析

- 中間報告を踏まえ、検証方法、検証計画を改善し、課題解決に取り組む。

9 まとめ・表現②(成果発表会)

- 論文とポスター又はプレゼンテーションスライドにまとめ、発表する(他校との共同実施・地域等への公開等)。

10 振り返り

- 成果発表会の質疑応答を振り返り、研究の改善点を考える。
- 研究したことと自分の進路選択を関連付けて考える。

相互に関連付けることで、総合的に働き、全ての学習の基盤となる資質・能力が育成される

各教科・科目等の学びの質的な向上

※6~10を繰り返す、探究の質の向上を目指しましょう。
※7、9では生徒同士の質疑応答を奨励しましょう。

実社会・実生活において、自ら課題を発見し、解決していくための資質・能力の向上

演習の進め方①

演習 A (50分)

教師用

- ねらい
- ・題材の分析や論点を考える活動を通して、視野を広げ、**多角的視点**を身に付ける。
 - ・主張を作る活動を通して、課題解決の見通しを持つためには複数の情報が必要であることに気付く。

A-Step1 題材を分析する (10分) [個人]

題材に複数の要素が含まれていることに気付くことができるようにするために、題材の背景や原因、結果、影響など、題材に関連する事柄をいろいろ挙げさせます。

生徒の活動	教師の支援
①活動の説明を聞く。(5分) ・ねらいと活動内容の説明を聞く。 ②指示された題材を分析する。(5分) ・各自で、題材に関連する事柄を数多く挙げ、付箋に書き出す。	・題材を一つ生徒に示す。 (学校の設定課題でもよい) 例)市内路線バスの減便



A-Step2 複数の視点で題材を捉え、論点を考える (15分) [個人、グループ]

多角的な視点を身に付けるために、**A-Step1**で挙げた事柄を参考にしながら、複数の視点で論点(議論できそうなこと)を考えさせます。視点は下記の例を参考にして教師が複数提示しましょう。

視点の例

- ・経済、法、行政等 (**社会的視点**)
- ・科学、論理、原因や結果等 (**理論的視点**)
- ・経験、データ、実際の出来事等 (**事実的視点**)
- ・気持ち、意識等 (**感情的視点**)
- ・倫理、価値観、思想等 (**倫理的視点**)
- ・文化、芸術、学術等 (**文化的視点**)

生徒の活動	教師の支援
①視点を基に論点を考える。(10分) ・各自で、 A-Step1 の事柄を参考にして、示された視点で、論点(議論できそうなこと)を考え、できるだけ多く付箋に書き出す。 ②共有する。(5分) ・グループで付箋を使い、考えたことを共有する	・論点を考えやすくするため視点の種類を提示し、例を示し説明する。 例)今回の社会的視点は「行政」とする 等



A-Step3 論点を一つ決め、主張を作る (25分) [個人、グループ]

A-Step2で考えた論点の中から活発に議論(意見交換)を進めることができるようなものをグループで一つ選ばせます。選んだ論点に対して、注意事項を示しながら、意見や主張を考えることで、主張は解決の見通しを含むことや、そのために複数の情報が必要になることに気付かせます。

生徒の活動	教師の支援
①意見を考える。(5分) ・ A-Step3 で選んだ論点について、個人で意見を考え、付箋に書き出す。 ②議論(意見交換)する。(10分) ・グループで付箋を使い、意見交換する。 ③主張を作る。(10分) ・グループで一つ主張を作る。その際、主張に必要な情報をメモする。	(注意事項の提示) ・意見や主張を作る時は、 1) 論点から外れないこと 2) 解決の見通しが持てること 3) 他者に伝わりやすい表現にすること を指示する。



- ねらい
- ・題材の分析や論点を考える活動を通して、視野を広げ、**多角的視点**を身に付ける。
 - ・主張を作る活動を通して、課題解決の見通しを持つためには複数の情報が必要であることに気付く。

年 組 氏名()	()班 メンバー	月 日
-----------	--------------	-----

題材「市内路線バスの減便」

バス会社から市内路線バスの減便の方針が示された。

A-Step1 題材を分析しよう (10分)

題材の背景や原因、予想される結果や影響など、題材に関連する事柄をできるだけ多く挙げましょう。

●背景や原因
バス会社の経営難

●予想される結果
お年寄りが困る

●予想される影響
地域経済への影響

●背景や原因
利用者の減少

●予想される結果
生活が不便

●予想される影響
市外への人口の流出

A-Step2 複数の視点で題材を捉え、論点を考えよう (15分)

A-Step1で挙げた事柄を参考に、複数の視点で、論点(議論できそうなこと)を考えましょう。

行政(社会的視点)

行政による指導や
支援は必要か?

結果(理論的視点)

バス減便でどれだ
け不便になるか?

経験(事実的視点)

公共交通機関離れ
は進んでいるか?

意識(感情的視点)

市の住民はどのよ
うな意見か?

倫理(倫理的視点)

交通弱者の移動手段
はどうなるのか?

文化(文化的視点)

公共交通機関は人々の
交流に資するか?

A-Step3 論点を一つ決め、主張を作ろう ※選んだ論点に○をつけましょう (25分)

A-Step2で考えた論点の中から活発に議論(意見交換)できそうなものをグループで一つ決めましょう。その選んだ論点に対して、個人で意見を考え、その後、議論(意見交換)を通して、グループで主張の一つ作りましょう。意見や主張を作る時には、1)論点から外れないこと、2)解決の見通しが持てること、3)他者に伝わりやすい表現にすることに気を付けましょう。

個人の意見

高齢者や子どもなど弱い人たちが移動にと
ても困るので、バスの便数は現状のままが
いいと思う。

バスは減便になっても、タクシー等を利用
すれば、大丈夫ではないか。

バスを小型のものにすれば、バス会社が減
便をしなくても大丈夫なのではないか。

バス会社の経営が厳しくて減便になるなら、
市で補助を出して便数を維持すればどうか。

グループの主張

バスを小型のものにすれば、バ
ス会社は減便をしなくても便数の
維持ができて交通弱者も困らな
いのではないか。

メモ(主張の根拠として必要な情報)

- ・大型バスと小型バスでの経費の
違い
- ・バスの利用状況
- ・高齢者や子供へのアンケート

演習の進め方②

演習 B (50分)

教師用

- ねらい
- ・主張に対する問いを考える活動を通して、思考を柔軟にし、**批判的思考力**を身に付ける。
 - ・一般化した問いを基に自分の課題を作る活動を通して、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を考える。

B-Step1 主張の根拠となる情報を分類する (15分) [個人、グループ]

主張の根拠となる情報について、個人的な情報（経験や思いつき等、人によって情報が変わること）と、客観的な情報（データ等、誰が見ても変わらない事実）に分類させます。

生徒の活動	教師の支援
<p>①主張の根拠となる情報についてできるだけ多く挙げる。（10分）</p> <ul style="list-style-type: none">・個人で、個人的な情報と、客観的な情報に分類しながら付箋に書き出す。 <p>②共有する。（5分）</p> <ul style="list-style-type: none">・グループで①の付箋を使い共有する。・情報が不足している場合は補充する。	<ul style="list-style-type: none">・情報に二種類あることを説明し、例を示す。・二種類の情報をバランスよく挙げさせる。



B-Step2 情報に対して批判的な思考で問いを考え、その問いを一般化する (20分) [グループ]

B-Step1の情報それぞれいくつかを選び、概要をまとめさせます。その概要に対して批判的な思考で問いを考えさせます。さらに、この問いを一般化し、汎用性のあるものにします。

生徒の活動	教師の支援
<p>①主張の根拠の概要を捉える。（5分）</p> <ul style="list-style-type: none">・根拠の情報を複数選び、概要をまとめる。 <p>②概要に対して、批判的な思考で問いを考える。（5分）</p> <p>③問いを一般化する。（5分）</p> <p>④クラスで発表する（5分）</p> <ul style="list-style-type: none">・各グループで見いだした一般化した問いを発表する。（一斉に見合えるよう工夫する）	<ul style="list-style-type: none">・問いを考えるときには概要に対して疑問に思うことを疑問形で表すように例示する。 例)「本当に〇〇なのか？」や「なぜ〇〇なのか？」等・一般化した問いは、<ol style="list-style-type: none">1) 必ずしも正解がないもの2) この課題に限定されていないもの3) 用語は具体的な言葉を、一般的な言葉に置き換えることを示す。 例) バス→公共交通機関



B-Step3 一般化した問いを基に、自分の課題を作る (15分) [個人、グループ]

B-Step2で一般化した問いを基に、自分の課題を考えさせます。

（演習後、本格的に探究活動を開始する際の課題を作り、課題設定する場面では、設定した理由を説明できるようにさせましょう。）

生徒の活動	教師の支援
<p>①一般化した問いを基に、自分の課題を作る。</p> <ul style="list-style-type: none">・一般化した問いを基に、個人で自分の課題を作り、グループで共有する。	<ul style="list-style-type: none">・課題は、<ol style="list-style-type: none">1) 自分の生活に身近なこと2) 探究が可能である（課題解決に向けて情報や根拠が収集できる）こと3) 各教科等の学びと関連付けられることを示し、中心として考えるように促す。



- ねらい
- ・主張に対する問いを考える活動を通して、思考を柔軟にし、**批判的思考力**を身に付ける。
 - ・一般化した問いを基に自分の課題を作る活動を通して、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を考える。

年 組 氏名()	()班 メンバー	月 日
-----------	--------------	-----

題材「市内路線バスの減便」

[主張] バスを小型のものにすれば、バス会社は減便をしなくても便数の維持ができて交通弱者も困らないのではないか。

B-Step1 主張の根拠となる情報を分類しよう (15分)

主張の根拠となる情報をできるだけ多く挙げていき、個人的な情報（経験や思いつき等、人によって変わる）と、客観的な情報（データ等、誰が見ても変わらない事実）に分類し、信頼できる情報とは何か考えましょう。

個人的な情報(経験や思いつき等、人によって変わる)

客観的な情報(データ等、誰が見ても変わらない事実)

減便したら交通弱者は困る

減便したら観光客も減り会社も町も困る

バス路線が現在は赤字である

過去10年間のバス利用者の減少

会社が小型バスにすれば便数が維持できる

過疎の村では小型バスを運行している

現在のバス、小型バスの経費

高齢者の今後10年間の増加

B-Step2 情報に対して批判的な思考で問いを考え、その問いを一般化してみよう (20分)

B-Step1の情報をそれぞれいくつか選び、概要をまとめましょう。その概要に対して批判的な思考で問いを考えましょう。この問いを一般化して、汎用性のあるものにしましょう。

例①

情報の概要をまとめる

批判的な思考で捉える

[情報]

- 減便したら交通弱者は困る
- 減便したら観光客も減り会社も町も困る
- バス路線が現在は赤字である

[情報の概要]

減便すると、交通弱者は困るが、今のままでは会社は赤字。減便すると、観光客が減り、町が衰退化する。

[問い]

本当にバスがないと交通弱者は困るのか？
本当に町は衰退化するのか？

公共交通機関は市民の生活にどの程度影響するのか

問いを一般化する

例②

情報の概要をまとめる

批判的な思考で捉える

[情報]

- 小型バスにすれば便数が維持できる
- 過疎の村では小型バスを運行している
- 過去10年間のバス利用者の減少

[情報の概要]

バスの利用者は減少しているが、小型のバスであれば便数を維持できる。

[問い]

便数の維持は本当に交通弱者に必要なことか？
交通弱者は、小型のバスにすることで満足できるか？

社会的弱者への支援策はどんなことが行われているか

問いを一般化する

B-Step3 一般化した問いを基に、自分の課題を作ろう (15分)

課題は 1) 自分の生活に身近なこと 2) 探究が可能である（課題解決に向けて情報や根拠が収集できる）こと 3) 各教科等の学びと関連付けられることを中心に考えましょう。

[一般化した問い]

[思考]

[自分の課題]

公共交通機関は市民の生活にどの程度影響するのか

電車の便数が減るとどのくらい住民は困るか。【数学+公民】

地域のお年寄りの移動手段と生活の利便性

社会的弱者への支援策はどんなことが行われているか

弱者とは誰か、その支援策は何が考えられるか。【公民+家庭】

地域の共働き子育て中夫婦の保育への支援策

- ねらい**
- ・題材の分析や論点を考える活動を通して、視野を広げ、**多角的視点**を身に付ける。
 - ・主張を作る活動を通して、課題解決の見通しを持つためには複数の情報が必要であることに気付く。

年 組 氏名()	()班 メンバー	月 日
-----------	--------------	-----

題材「 _____ 」

A-Step1 題材を分析しよう (10分)

題材の背景や原因、予想される結果や影響など、題材に関連する事柄をできるだけ多く挙げましょう。

A-Step2 複数の視点で題材を捉え、論点を考えよう (15分)

A-Step1で挙げた事柄を参考に、複数の視点で、論点(議論できそうなこと)を考えましょう。

[_____]

[_____]

[_____]

[_____]

[_____]

[_____]

A-Step3 論点を一つ決め、主張を作ろう ※選んだ論点に○をつけましょう (25分)

A-Step2で考えた論点の中から活発に議論(意見交換)できそうなものをグループで一つ決めましょう。その選んだ論点に対して、個人で意見を考え、その後、議論(意見交換)を通して、グループで主張を一つ作りましょう。意見や主張を作る時には、1)論点から外れないこと、2)解決の見通しが持てること、3)他者に伝わりやすい表現にすることに気を付けましょう。

個人の意見

グループの主張

メモ(主張の根拠として必要な情報)

- ねらい
- ・主張に対する問いを考える活動を通して、思考を柔軟にし、**批判的思考力**を身に付ける。
 - ・一般化した問いを基に自分の課題を作る活動を通して、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を考える。

年 組 氏名()	()班 メンバー	月 日
<p>題材「 _____ 」</p> <p>[主張]</p>		
<p>B-Step1 主張の根拠となる情報を分類しよう (15分)</p> <p>主張の根拠となる情報をできるだけ多く挙げていき、個人的な情報（経験や思いつき等、人によって情報が変わること）と、客観的な情報（データ等、誰が見ても変わらない事実）に分類し、信頼できる情報とは何か考えましょう。</p>		
<p>個人的な情報（経験や思いつき等、人によって変わる事）</p>	<p>客観的な情報（データ等の誰が見ても変わらない事実）</p>	
<p>B-Step2 情報に対して批判的な思考で問いを考え、その問いを一般化してみよう (20分)</p> <p>B-Step1の情報をそれぞれいくつか選び、概要をまとめましょう。その概要に対して批判的な思考で問いを考えましょう。この問いを一般化して、汎用性のあるものにしましょう。</p>		
<p>B-Step3 一般化した問いを基に、自分の課題を作ろう (15分)</p> <p>課題は、1) 自分の生活に身近なこと、2) 探究が可能である（課題解決に向けて情報や根拠が収集できる）こと、3) 各教科等の学びと関連付けられることを中心に考えましょう。</p>		
[一般化した問い]	[思考]	[自分の課題]

研究協力校の取組紹介 岡山県立岡山芳泉高等学校
「総合的な探究の時間」の充実 一対話的な学びを通して発信力を高める一

岡山県立岡山芳泉高等学校 育てたい人間像

- (1) 公共心や規範意識等を身に付け社会に積極的に貢献する人材
- (2) 世界で活躍するグローバル人材と地域を支えるローカル人材



令和元年度 1年次生の「総合的な探究の時間」年間計画と実際の授業内容の一部

具体的なテーマ	コンセプト	スキル
もぐらとはりねずみ	多様な視点から考える	ブレインストーミング、話し合い、発表
列車のジレンマ	多様な価値観から考える	ブレインストーミング、話し合い、発表
グローバルを考える	世界と自分をつなげて考える	ブレインライティング
ロブスターをゆでる	異文化を受け入れること	マインドマップ、話し合い
R-CAP	自分を深く知る	マインドマップ、話し合い
知の理論 1	振り返りから「知識」の性質を考える	振り返り、オープンな発表
知の理論 2	「知っている」ということを考える	オープンな問い、話し合い
思考の広げ方	知識の用い方を学ぶ	オープンな問い、話し合い
課題研究	テーマを設定する手法を学ぶ	オープンな問い、話し合い
研究計画の検証 1、2	振り返りを活用する 1、2	振り返り、オープンな発表
研究をグループで深める 1~3	ポスター作成	グループ活動、情動
中間発表	中間発表	グループ活動、情動
中間発表後のグループ活動	ポスター作成	グループ活動、情動
先輩の研究発表の見学	振り返りを活用する 3	振り返り、オープンな発表
内容修正・ポスター作成 1、2	ポスター作成	グループ学習、情動
論文作成ガイダンス	知識を活用して根拠を明確にする	オープンな問い、話し合い
ポスターセッション	成果発表 1	グループ学習、情動
代表ポスターセッション	成果発表 2	グループ学習、情動
模擬課題研究・レポート作成	論文作成	アカデミックライティング

（ ）組（ ）番 氏名（ ）

自分が関与 発表1 発表2 発表3

発表者 発表者番号を記入

評価表

総評 A 研究課題の設定（タイトルが研究課題と関連しているかどうか）

0 以下のレベル説明の段階に達していない。 発表1 発表2 発表3

1 研究課題は設定されているが、タイトルでは研究内容がわからない。 1 1 1

2 研究課題は設定されており、タイトルから研究内容がわかる。 2 2 2

3 研究課題は、背景・目的をもとに適切に設定され、タイトルから研究内容がわかる。 3 3 3

総評 B 研究手法（資料・データなどをどのように集め、分析しようとしているか）

0 以下のレベル説明の段階に達していない。 0 0 0

1 資料から読み取った結果を記述している。分析や考察についての説明はほぼない。 1 1 1

2 資料やデータから読み取った内容を基に、分析・考察も書かれて説明がある。 2 2 2

3 資料やデータから読み取った内容を基に、分析・考察について適切な説明を、わかりやすく工夫している。 3 3 3

総評 C 分析・結果・考察（分析・結果・考察のまとめが、論理的で、わかりやすいか）

0 以下のレベル説明の段階に達していない。 0 0 0

1 資料から読み取った結果を記述している。分析や考察についての説明はほぼない。 1 1 1

2 ひとつの資料から読み取った内容を基に、分析・考察も書かれて説明がある。 2 2 2

3 複数の資料から読み取った内容を基に、分析・考察している。 3 3 3

総評 D 結論（分析をまとめて結論が述べられているか）

0 以下のレベル説明の段階に達していない。 0 0 0

1 研究課題に対する結論を示そうとしているが、分析とは関連はほぼない。 1 1 1

2 研究課題に対する結論が明確に示され、分析と一致している。 2 2 2

総評 E まとめ・評価（結論内に、自分たちの手法の適切さを自己評価しているか）

0 以下のレベル説明の段階に達していない。 0 0 0

1 結論内で、自分たちの情報収集や分析手法の適切さを評価しようとしている。 1 1 1

2 結論内で、自分たちの情報収集や分析手法の適切さを評価し、根拠が書かれている。 2 2 2

3 結論内で、自分たちの情報収集や分析手法の適切さを評価し、改善点がある。 3 3 3

総評 F 形式的要件（ポスター全体の様式をわかりやすくしているか）

0 以下のレベル説明の段階に達していない。 0 0 0

1 ポスターのレイアウトが揃っていないが、十分ではない。 1 1 1

2 ポスターのレイアウトが揃っており、本格的な印象を受ける。 2 2 2

3 ポスターのレイアウトが揃っており、見やすい。 3 3 3

総評 G 一般的な間違いや誤りがない。または説明がある。

誤字脱字がない。

説明文が読みやすい。

引用文献、参考文献など、自分たちの拠る資料を示している。

図や表などをつくるときに、適切な表現になっている。

合計1 合計2 合計3

相互にプレゼンテーションの評価をさせる。その際、ルーブリック評価表を活用する。

事例1 活動の振り返り

日本でエビを生きたまま調理するのは、動物愛護の観点から禁止すべきだと国際機関で決定されたら、それに従うか？ 従わないか？ その理由は？

他国の法律を日本で適用することになったらどう感じるか、を考えさせる。

事例2 グループ活動の振り返り、オープンな問い

「高校で学習する知識で犯罪を減らすことにつながるのはどの教科(科目)の知識か」

プレゼンテーションの作成
・用紙は2枚作成。打ち合わせも含め(4分)

教科(科目)名 根拠・①「○○という知識が犯罪を減らすことにつながる」	教科(科目)名 根拠・①「○○という知識が犯罪を減らすことにつながる」
入手方法「○○に書いてあった。」 「○○が教えてくれた」	入手方法「○○に書いてあった。」 「○○が教えてくれた」

↑すぐ前に思いついた教科(科目)「知っている」

↑最後に思いついた教科(科目)「知る」

オープンな問いを示し、話し合いをさせ、発表させる。

事例3

～今日の活動～ ×この時間に図書館に行く

各グループごとに研究を進めよう

必要な資料(データ)の検討
資料(データ)収集
実験(調査)の準備
資料(データ)の分析
結論の妥当性・信頼性の検討 など

注意

- 「調べて終わり」ではなく、自分たちなりに考察し、結論を出すようにしましょう
- より客観的で説得力のある結論になるよう、様々な立場から多面的に検討を加えましょう
- 研究データの手法に留意や修正を加えることはかまいません

研究の進め方を具体的に示す。

「総合的な探究の時間」のすべての授業は準備したシナリオとプレゼンテーションスライドで進められます。毎時間、生徒たちは、現実社会に通じるテーマについて、話し合いと発表を行います。

この授業を通じて、生徒たちは、現実社会の課題について気づき、考え、話し合う力を身に付け、発信力を高めていきます。2年次では、さらに探究の力を高めることができるように、SDGsを題材として身近な問題へ落とし込み、自分の課題を作り、課題解決の仮説を立て取り組んでいきます。

研究協力校の取組紹介 岡山県立岡山大安寺中等教育学校
6年間の学びを探究活動と概念でつなぐ – 教師の授業改善を進め、生徒の資質・能力の育成を図る –

岡山県立岡山大安寺中等教育学校 育てたい生徒像

- ・高い目標を掲げ、既習事項を確実に習得しつつ社会の動きを捉え、課題研究や課題解決に向けて主体的に取り組む生徒
- ・基本的生活習慣を確立し、困難に打ち勝つ粘り強い心と協調性や思いやりを持った生徒
- ・国際的に通用する英語力を習得し、グローバル社会に対応できる視点を持った生徒

■「総合的な学習・探究の時間」6年間の計画と実際の授業の一部(令和元年度)

学年		学習内容	具体的な取組
6	フリー探究	・進路実現	・進路実現に向けてこれまでに身に付けたスキルを活用 ・代表生徒は課題研究Ⅱを6年生及び2年生の前で口頭発表
5		・課題研究Ⅱ	・4年生で設定した課題について分野ごとに分かれた個人研究(法学・社会学・経済学・理学・工学・医療等)
4	ガイド探究	・課題研究Ⅱ	・興味のある分野から研究テーマの決定 ・新聞記事からキーワードを抜き出すトレーニング(研究テーマへの知識・理解を深める) ・課題設定についてグループ内で議論 ・プレゼンテーションのスキルアップ
3		・課題研究Ⅰ	・興味のある研究テーマを複数分野から選択 ・明確なリサーチクエストの設定(知識や言葉の定義付けを意識) ・新聞記事からキーワードを抜き出すトレーニング(研究テーマへの知識・理解を深める)
2	コントロール探究	・岡山を知る ・14歳の語り部～平和学習～ ・プレ課題研究	・共通のテーマについて多面的に関わり、課題発見、調査。(岡山はなぜスイートピーの生産が盛んなのか。児島のデニムの人気を上げるにはどうすればよいか。岡山の桃の生産量の変化は気候変動と関係しているか。等) ・共通テーマにおいてリサーチクエストを設定 ・シンキングツールの活用、アンケート調査 ・統計グラフ、パンフレット、リーフレットの形でまとめ
1		・職業調べ ・ジョブシャドウイング ・わたしの地元	・シンキングツールの活用(イメージマップ、KWL、Xチャート等) ・文献調査やフィールドワークを通して課題発見の視点を養う。



■各教科の単元指導案の例

担当教師	教科	言語総合 現代文	担当クラス
単元名(使用教材)	夢十夜 夏目漱石	(教科書収録は第一夜と六夜)	授業時間 4
単元の目標	小説におけるリアリティについて考え、漱石の優れた描写を味わう		
単元計画	主な学習活動とねらい		
第一次 1時 夏目漱石、夢十夜について知る 第一夜を読む	・資料プリントで漱石について知る。 ・次時への導入として本文を読む。		
第二次 1時 小説におけるリアリティについて考える(本時)	・比較作品を読み、そこに欠けているものをみつける。 ・リアリティの必要性を考える。 ・リアリティを生み出すための方策を考える。		
2時 第一夜を読む 3時 第六夜を読む)リアリティを生み出している表現に着目して読みとる。		
単元の目標を6の生徒像、7の概念に置き換えると			
この単元で目指す生徒像	この単元で身に付けさせたい主要な概念	関連すると考えられる他の概念	
探究する人	つながり	創造性	
探究の主題	小説が虚構であるならば、そこにリアリティは必要か?必要だとすればそれはなぜか?		
探究の問い	小説においてリアリティとは何か?		
事象的	リアリティとは何か?		
概念的	小説におけるリアリティとはどういふものか?		
論理的	小説においてリアリティは必要か?必要だとすればそれはなぜか?		
評価項目	評価規準		
・批判的思考力 ・コミュニケーション	・比較作品の問題点に気づくことができる。 ・グループ討議で積極的に意見を伝えたり、聞いたりすることができる。		
学習のアプローチ	・批判的思考 ・コミュニケーション		

■授業観察シートの例(一部抜粋)

授業実施日	時間	教科・科目名	学年	組	人数	使用教室等
/ ()		言語総合 現代文	4		40人	
単元	小説「夢十夜」夏目漱石					
本時のめあて(目標)	小説におけるリアリティのもつ意味を考える。					
目指す生徒像(1つで囲んで下さい)	① 探究する人 2 知識のある人 3 考える人 4 コミュニケーションができる人 5 振り返りができる人 6 俯瞰できる人					
重要概念(1つで囲んで下さい)	1 美しさ 2 変化 ③ つながり 4 創造性 5 文化 6 形式 7 論理					
この授業で教える、または使うATL(○で囲んでください 複数可)	1 コミュニケーション 2 協働 3 組織 4 情動 5 振り返り 6 情報リテラシー 7 メディアリテラシー ⑧ 批判的思考 9 創造的思考 10 転移					

学校で設定したキーコンピテンシー・重要概念を基に授業づくりに取り組んでいます。参観授業では、授業者が単元指導案と、「目指す生徒像」「重要概念」「学習のアプローチ」等を記した観察シートを参観者に渡し、授業改善に活用しています。

■目指す生徒像



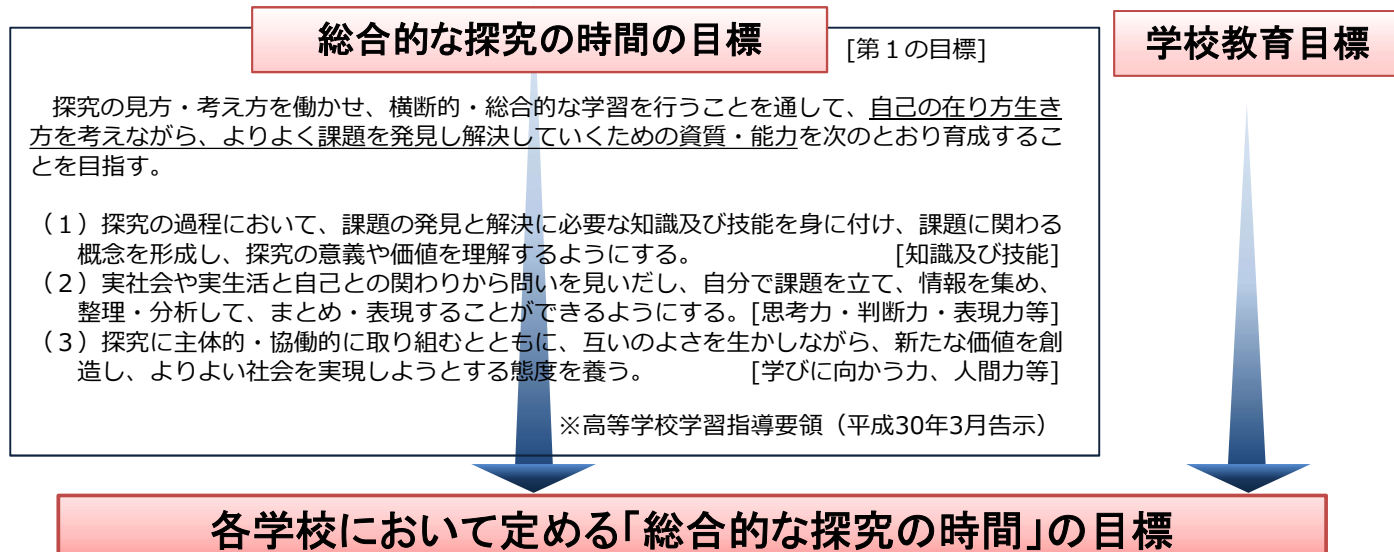
各教科の授業内容と総合的な探究(学習)の時間の学びを概念で結び、学びの質の向上を図っています(「教科等横断的な深い学び」)。国際バカロレアの趣旨を踏まえ「岡山大安寺版」キーコンピテンシー・重要概念を設定しました。教師同士や、教師と生徒の目指す目標を共有(「見える化」)し、6年間で深化する様々な探究活動や概念学習を通じて、批判的に思考する力や、物事の本質を見る力を養っています。

参考 総合的な探究の時間

「総合的な探究の時間」の目標、内容、ポイント等を確認しておきましょう。

1 総合的な探究の時間の目標の設定

各学校の「総合的な探究の時間」の目標は、学習指導要領の総合的な探究の時間の目標(以下「第1の目標」)と各学校における学校教育目標の2つを踏まえて設定します。



「総合的な探究の時間」を通して、育成を目指す資質・能力などを表します。

2 目標を実現するための内容の設定

① 探究課題

探究課題は、学校で適切なものを設定します。探究的に関わりを深める人・もの・ことを示したもので、例えば「自然環境とそこに起きているグローバルな環境問題」、「地域の伝統や文化とその継承に取り組む人々や組織」等があります。

生徒が目標の実現に向けて、「何について学ぶか」を表したものが探究課題です。この探究課題に沿って生徒が学習活動の中で自ら取り組む個別の課題を設定します。

② 取組を通して育成を目指す資質・能力

上記①で定めた探究課題に合わせて具体的に示します。「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」という資質・能力の3つの柱に即して、具体的に設定します。

3 総合的な探究の時間の学習指導のポイント

総合的な探究の時間では、問題解決に向けての学習が発展的に繰り返されるようにします。学習指導のポイントは、一つは「学習を探究の過程にすること」とし、もう一つは「他者と協働して取り組む学習活動にすること」です。

参考文献：高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編 [文部科学省 平成30年7月]
国際バカロレア（IB）スキルと実践 知の理論 Theory of Knowledge [オックスフォード大学出版 2016年]

発行：岡山県教育庁高校教育課

作成協力：岡山県総合教育センター、岡山県立岡山芳泉高等学校、岡山県立岡山大安寺中等教育学校